
<教育実践学系の紹介>



教育実践学とは

教育理論と教育実践の往還

教育学(研究者)と学校現場(教員)の協働

を常に意識しながら、

実践や学校現場の問題解決に資する探究を進める

教育学の新しい立場です。

教育研究(者)

- 理論
- 基礎的な知見
- 中長期的視野



学校現場(教員)

- リアルタイムな問題
- 実践と省察
- 実用的効果

教育実践学系の専任教員

- 船橋一男(生活指導, 子ども研究)
- 岩川直樹(教育臨床, コミュニケーション)
- 宇佐見香代(生活科・総合学習, 教師論)
- 磯田三津子(在日外国人児童生徒教育, 国際理解教育)
- 野村泰朗(教育工学, 情報教育, STEM教育)

教育実践学系の専任教員

◆船橋一男 生活指導 子ども研究

生活指導を専門に研究しています。子どもたちの背後にある「生活」はさまざまです。その「生活」がときに子どもたちに重たくのしかかってくることもあります。その「生活」を、いろいろな人々に支えられながら、自分の力でつくりかえていくような子どもたちをどう育てていくのかを、教育実践の事実に学びながら考えています。

◆岩川直樹 教育臨床 コミュニケーション

教育の臨床的研究を行っています。教室に生起する具体的な出来事がもつ文化的・社会的・倫理的・政治的な意味を教師や学生や市民と問い直し合い、分かち合ってゆく研究アプローチ。教育現場へのフィールドワークを重ねながら、そこに見出される事実の意味を教育学および人文社会学の多様な視点をとおして読み解くことをつづけています。そのなかで、「他者への関心の深まりを起点にしながら、つながりに気づき、つながりを編み直すこと」を教育の原理とするような実践哲学を練り上げています。

◆宇佐見香代 生活科・総合学習 教師論

1年生向けの授業では、「生活科概説」「総合的な学習指導法」と「教師の成長と教師教育」という授業を担当しています。生活科や総合など新しい理念をもった科目領域の実践について、事例の分析を行ったり、それらが誕生し充実してくる過程を追ったりして、実際的な研究をすすめています。教育現場だけでなく、いろいろな場所へのフィールドワークにもよく出かけます。この他、学力に関する議論や教師に必要な力量についても研究の対象です。ゼミには、教育実践に関わる様々な事項を深く研究したい学生が集まってきます。

◆磯田三津子 在日外国人児童生徒教育 国際理解教育

グローバル化の進展に伴って、たくさんの人々が外国から日本に渡ってきています。私は、外国につながるのある子どもたちをめぐる教育について研究しています。1年生が履修できる科目として「教材づくりと授業展開」という授業を担当しています。そこでは、国際理解教育の考え方に基づいた教材づくりや、授業実践について講義と演習を通して授業を行っています。外国につながるのある人々をはじめ教室にはいろいろな子どもたちがいます。そういった子どもたちの多様性を大切にできる教育の在り方について探求しています。。

◆野村泰朗 教育工学 情報教育 STEM教育

野村研究室では、教育工学の考え方である「さまざまな分野の知見を融合し社会の問題を教育で解決する」ことを特に認知科学や情報科学の手法を用いて研究しています。特に、人工知能、そして新型コロナと共存するこれからの時代に求められる学校教育を実現できる授業や教材をデザインするための授業設計手法に関する研究を続けています。また、昨今注目されている問題解決力や主体的な学びができる力を育てるための方法と内容について、実際に学校や学童保育などの教育現場に関わりながら臨床的に研究開発を進めています。さらに、地域の子どもたちを研究室に招き、レゴブロック等を使ったものづくりを通した教育活動について一緒に取り組んでいます。個性豊かな先輩や卒業生、現場の先生方と一緒に、実際に子どもたちと関わりながら、未来の教育を創造していきませんか？

今、教育の現場で生起していることに 常に関心を持ち探究を深める

- 複雑な問題状況を抱える教育の現場に丁寧に寄り添い、そこで起きていることを研究の対象とするエピソードの解釈をしつつその解決の糸口を探る：
- 子どもの身体からのメッセージを読みながら、授業を展開する教師



授業を構成している要素

- 教師が行うこと(たとえば、指名、指示、発問、板書、机間指導など)
- 学習の目標・内容・教材
- 子どもの活動(説明を聞く、問題を解く、調べる、発表する…)
- この他、子どもの生活背景や社会情勢など、多くの要素が授業に影響を及ぼし、複雑な状況を作り出している。



学校現場で生起する
問題の解決の難しさ

教員になるなら、 教育実践学の専門性を学ぼう

- 教育の現場に寄り添って、問題状況を正確かつ豊かに読み取る力
- 実際に適切に行動・参画できる力
- 現実を直視し、乗り越えようとする問題解決の態度

などが身に付きます。



■ ゼミや合宿で仲間同士と出かけたり語り合ったりする機会が多い専修です。

わからないことは遠慮なくお尋ねください

教育実践学系 2 年生担任

岩川直樹 iwakawa@mail.saitama-u.ac.jp

磯田三津子 isoda@mail.saitama-u.ac.jp

※実践系ガイダンス 4 月 1 7 日 3 限

心理学系 2 年生担任

中井大介 honakaid@mail.saitama-u.ac.jp

※心理系ガイダンス 4 月 1 7 日 4 限（5 限）